

# 大阪大学図書館報

Vol. 5, No. 4, August, 1971

## マイクロフィッシュを利用しましょう

本館参考掛

館報4月号でマイクロフィッシュ撮影業務の開始をお知らせしましたが、マイクロフィッシュの特徴は、ハガキ大(105mm×148mm)のシート状で、縦・横が6段×12行=72コマ(72頁)を収容し、また「タイトル」や見出しを簡単に撮影することができます。

このため、これまでのロール状の35mmマイクロフィルムと比べて、①すぐ必要箇所を見つけ出せる。②

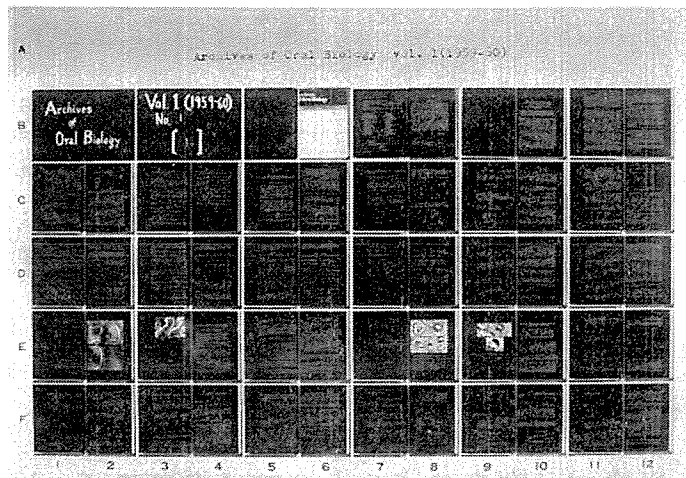
カード機能も発揮できる(各シートの組合わせ・加除によるファイリング)。③携帯・移動に便利、などの利点があり文献・資料管理のうえで、たいへん効果があります。

さらに別表のように、35mmマイクロフィルムの料金と比べてたいへん経済的(約二分の一)でもあります。

マイクロフィッシュの利用としては、①蓄積された大量の資料(文書・文献など)を管理しやすいようにタイトルを与えて撮影し、容積の大巾な節約を図る。(例 雑誌のバックナンバー、学位論文、判例、カルテ、学籍簿など) ②雑誌の欠号を図書館間の相互利用によってマイクロフィッシュ撮影で補充する。③いろいろな大きさの一枚もの資料(地図、パンフレットなど)をまとめて撮影して形態・サイズの統一を図り、あわせて資料の散逸破損に備える。④その他(テクニカル・レポート、プレプリントなどのマイクロフィッシュ化)などがあります。

そしてマイクロフィッシュ化されている文献をリーダーによって拡大して閲覧すること、およびそれをリーダープリンターによってプリントする操作は、誰にでも容易です。

ところでマイクロフィッシュの料金は、現在、「学内校費移算による支払い」が行なわれて



〔フィッシュ見本〕

(撮影参考掛)

います。また、近く「学外料金」および「学内私費料金」が文部省で決定される予定ですので、他大学の図書館へ、自館雑誌の欠号をマイクロフィッシュ撮影で依頼することが可能になります。

本館では、すでにリーダーとリーダープリンターとを備えていますので、利用についてはカウンターまでお申し出て下さい。また、中之島分館と吹田分館にリーダープリンターを、薬学部分館と理学部、基礎工、産研の各図書室にはリーダーを備えて、いつでも身近かに利用できる態勢が進行しつつあります。なお、本館増築完成時には、M・Fリーダー室の設置が予定されています。

多量の学術情報をコンパクトに保存・利用する手段として、皆さんの身近かで「かさばって、保存の必要があり、しかも常時、その全部を見る必要のない」ような資料は、マイクロフィッシュ化することが最適です。撮影にあたっては、①「タイトル」、見出し ②撮影方法 ③レイアウト＝配列、など掛員と具体的にご相談下さい。

### 〔料 金〕 比 較

(マイクロフィッシュ)		(35mmマイクロフィルム)	(支払方法)
フィッシュ撮影	1シートにつき 170円	ネガフィルム撮影 (基本料(1件につき) 50円	いずれも 学内校費移算 による。
タイトル撮影	1件につき 10円加算	1コマにつき 6円	
引き伸ばしプリント	1枚につき(A4) 30円	引き伸ばしプリント 1枚につき(A4) 30円	

たとえば「見本」にあげた Archives of Oral Biology Vol. 1, No. 1 の料金は、

マイクロフィッシュ撮影	170円(1シート)+10円(タイトル)=180円
35mmマイクロフィルム撮影	50円(基本料)+ <sup>※</sup> 56コマ×6円=386円

※ 72コマ(総コマ数)−[12コマ(タイトル)+4コマ(見出し)]=56コマ

マイクロフィッシュの場合には、マイクロフィルムの二分の一の料金となります。

## 学内マイクロフィルム・マイクロフィッシュ形態文献所蔵一覧

### 文学部

1. Tun Hung Manuscripts "Stein Collection of Chinese Manuscripts". No. 1—106 リール [M・フィルム]
2. Census of India. 31ケース [M・フィッシュ]
3. German Foreign Ministry Archives. No. 1—291 リール [M・フィルム]
4. 明治前期教育史料集成。No. 1—60 リール [M・フィルム]
5. 太政類典, No. 1—51 リール [M・フィルム]

### 法学部

1. Ленинский Сборник Том (1, 5), (8, 11), (12—13), (14—15, 17), (19, 21—22, 25—26), (23—24), (28, 30—31)。計7リール:( )内が1リール [M・フィルム]
2. The Records of the Smolensk District of All-Union Communist Party. No. 1—56, 61—62 計58リール [M・フィルム]

## 経済学部

1. Economic Development of Asian Countries. No.1—20リール〔M・フィルム〕
2. 明治年間府県統計書集成。No.1—500リール〔M・フィルム〕
3. 大正・昭和年間府県統計書集成。No.1—630リール〔M・フィルム〕
4. 太政類典公文類聚（慶応3年—明治18年）No.1—250リール〔M・フィルム〕
5. 営業報告書集成 第1集。No.1—400リール〔M・フィルム〕
6. 大隅文書（早稲田大学図書館編），No.1—170リール〔M・フィルム〕

## 薬学部

1. Royle, J. F.  
Illustrations of the Botany and Other Branches of the Nat. Hist. of the Himalayan Mountains and of the Flora of Cashimire. 26シート〔M・フィッシュ〕
2. Griffith, W  
Icones Plantarum Asiaticarum, vol. 1—4. 35シート〔M・フィッシュ〕
3. Strachey, R.  
Catalogue of the Plants of Kumaon and of the Adjacent Portions of Garhwal and Tibet. 6シート〔M・フィッシュ〕
4. Ainslie, W.  
Materia Indica. 23シート〔M・フィッシュ〕
5. Roxburgh, W.  
Flora Indica, vol. 1—2. 19シート〔M・フィッシュ〕
6. Royle, J. F.  
The Fibrous Plants of India. 8シート〔M・フィッシュ〕

## 理学部

1. Доклады Академии Наук Москва СССР. Том 30 (1941)—117 (1957)〔欠：53, 58—9, 62, 83, 85—111, 113〕104リール〔M・フィルム〕

## 電子計算機利用技術研修始まる

来年1月には、電算機（FACOM230—15）が導入されることが決まり、本館における図書館業務の機械化もいよいよ実現する運びとなった。これを機会に、昨年実施した「コンピューター講座（フォートラン）」に引き続き、本年は事務局および本館主催で全学職員研修の一環として、「電子計算機利用技術研修（コボル）」を次の要領で実施することになり、6月16日（水）午後3時から、本館視聴覚室で開講式が行なわれた。本館中野事務部長および庶務部人事課十川課長補佐の挨拶のあと、講師高井幸信氏の紹介があり、第1日目の研修（コンピューターの仕組み）が始った。

なお、この研修には図書館職員15名が受講している。

日 時：昭和46年6月16日から毎週水曜日 午後3時から午後5時まで  
（26回 計52時間）

場 所：附属図書館 本館視聴覚室（3階）

目 的：大学における事務処理の電算化をより円滑にならしめるため、事務職員に電

子計算機の利用についての正しい理解と判断力をもたせるとともに、利用技術の基礎的知識およびその応用能力を修得させることを目的とする。

対象職員：事務系職員 53名

内容：NHKコンピューター講座コボル入門16mmフィルムを映写し、事務処理にひろく使われているコボルによるプログラミングならびにその利用例を学び、講師による補足説明および演習等をあわせて行なう。

講師：富士通株式会社 大阪営業所

情報処理販売部 第二SE課

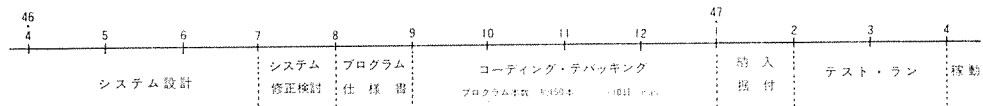
高井 幸信 (システム・エンジニア)

その他：研修修了者は人事記録にその旨記録する。

## 機械化ワーキング・グループ 経過報告

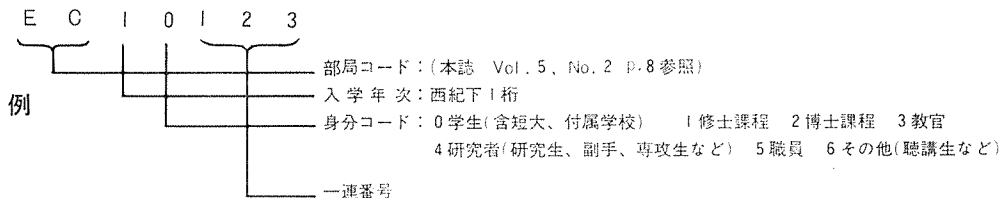
このグループは、昨年12月発足以来、委員の方々が多忙な本務のかたわら献身的に協力していただいたおかげで、当初大巾な遅れがありながら、7月末現在では雑誌受入管理（この業務は複雑で例外事項が多く先例が皆無）を除いてほぼ順調に進んでいる。本誌読者のみなさま方なかならず、教室などで雑誌関係の仕事をしておられる方々からのご意見、ご援助をお待ちしています。

### 機械化準備日程



### 第10回 46.5.26

#### 利用者コード



#### 貸出時入力項目

利用者IDカード(利用者コード) 7桁

ブックカード(ブックコード：9桁，主題コード：9桁，資料タイプ，利用目的区分：各1桁)

合計 英数字25桁

#### 延滞督促

ブックコード・主題コードをキーに利用者マスターファイルを照合して、頻度は2週間毎にハガキ様式の督促書を打出す。

#### 利用統計

項目→①身分コード ②主題コード ③資料のタイプ ④利用目的 ⑤学部・年次

1日分のデータを紙テープから磁気テープに入力，出力頻度は半月，月，年(⑤は年のみ)

## 受入関係入力項目

前号p4の表にもとづきキーとなる項目を決定。

## 第11回 46.6.1

## 貸出時間帯調査報告（松浦）

①晴雨は影響なし。②12：30～13：30がピーク，12：00—14：00間に1日の40%が集中。

## 「消耗品扱い」図書の廃止

従来，新書・文庫本など長期の反覆使用に耐えないものは「消耗品扱い」してきたが，この方法では，ブックコード（備品番号）がなく貸出時に混乱する上，複本処理が不可能なので，雑誌類，事務用図書を除くすべての図書を「備品扱い」する。

## 雑誌受入管理案説明（茂幾）

## 入力項目（マスターファイル）

雑誌コード→エッジカードにプレパンチする。

和洋区分→発行国，使用言語の双方からソートできるようにする。

誌名→140字 東大方式を参考にする。所蔵事項→可変長 100桁以内

## 第12回 46.6.18

## 雑誌受入業務の現状分析図説明（茂幾）

## 外国雑誌受入管理の機械化

分館・部局との連携→トランザクション，データを紙テープに入力し本館へ送る。

雑誌コード→「CODEN」を検討。

略誌名→これに代えフル・タイトルあるいは雑誌コードを使ってはとの意見があり再検討。

欠号チェック→ソフトウェアに問題点が多く慎重に検討する必要あり。

## 第13回 46.7.2

受入関係コード確定 部局名，利用目的，資料タイプ，支出科目，和洋別，取得手段，書店名

雑誌関係出力帳票 所蔵目録，現行受入リスト，外雑予約リスト，同前金払リスト，同精算リスト，到着月報，欠号請求票，請求依頼書，図書請求及命令書，同管理通知書，製本リスト。

## 雑誌受入管理フロー説明（富士通SE佐藤）

日常業務 対象→初年度は分館に紙テープ穿孔機がないので，本館で雑誌各号毎にプレパンチしたエッジカードを作成して分館に送っておき，分館では雑誌到着後これをまとめて本館に送付・バッチ処理する案が出たが，労力がかさむので見送り，初年度は本館で取扱っている雑誌（本館，文，法，教）に限って処理することにした。

処理方法→①エッジカードによるプレパンチ方式 ②コンピューターCPU内処理方式 の2案について検討した結果，雑誌の発行，到着形態はパターン化できない点が多いので①案，すなわち，エッジカードを1誌に1枚プレパンチし，雑誌到着時にカードをリーダーに読取らせ，巻号，発行月日はタイプ入力し，定期的に所蔵リストを出力して欠号をマニュアルでチェックする方法によることにした。

雑誌コード 大阪大学学術雑誌目録 欧文篇1969. 和文篇1971を利用する。

8桁 □□□□□□□□

一連番号 予備 <sup>デビ</sup>和 <sup>ユット</sup>洋

## 略誌名

会計帳票，到着月報などに必要。方式は東大図書館が近く略誌名71年版を出すのでこれを参

考にする。

見学会 46.7.13

田保橋, 浅野, 茂幾, 尾崎, 田中, 佐藤(富士通)の6名が京大本館および数理解析研を訪問し, 機械化なかならず雑誌受入管理について見学と懇談を行った結果, 日常業務および欠号チェックは上記①案が妥当であるとの印象を深くした。

学生希望図書一本館一

- |  |                |  |  |
|--|----------------|--|--|
| 昭和46年7月現在、受入済みのもの                              |                |  |  |
| 近代社会思想史  |                |  |  |
| 城塚 登   | 東大出版会          |  |  |
| 愛に始まる  |                |  |  |
| 一人間らしさの回復を求めて一                                 |                |  |  |
| 高田 好胤  | 徳間書店           |  |  |
| 新版西洋史概説  |                |  |  |
| 秀村 欣二 編  | 東大出版会          |  |  |
| 道 一本当の幸福とは何であるか一                               |                |  |  |
| 高田 好胤  | 徳間書店           |  |  |
| 自然 一生態学的研究一                                    |                |  |  |
| 森下 正明  | 中央公論社          |  |  |
| サル 一社会学的研究一                                    |                |  |  |
| 川村 俊義 他  | 中央公論社          |  |  |
| 人間 一人類学的研究一                                    |                |  |  |
| 川喜田二郎 他  | 中央公論社          |  |  |
| アポリネール全集 全一卷                                   |                |  |  |
| 鈴木信太郎 他編                                       | 紀伊国屋           |  |  |
| アイゼンハワー回想録                                     |                |  |  |
| I:アメリカ 5 (現代史戦後篇28)                            |                |  |  |
| II:アメリカ 6 ( 〃 29)                              |                |  |  |
| 仲 晃 他訳   | みすず書房          |  |  |
| 市民政治理論の形成                                      |                |  |  |
| 松下 圭一  | 岩波書店           |  |  |
| 科学としての経済学 (経済学基礎セミナー1)                         |                |  |  |
| 杉原 四郎 他編                                       | 有斐閣            |  |  |
| 経済学の諸問題 (安井琢磨著作集 第3巻)                          |                |  |  |
| 安井 琢磨  |                |  |  |
| ドストエフスキ全集 第20巻                                 |                |  |  |
| 米川 正夫 訳  | 河出書房新社         |  |  |
| 「甘え」の構造  |                |  |  |
| 土居 健郎  | 弘文堂            |  |  |
| 死の哲学 一楞きものの哲学一                                 |                |  |  |
| レフ・シェストフ                                       |                |  |  |
| 植野 修司 訳  | 雄渾社            |  |  |
| 眼と精神   |                |  |  |
| M・メルロー=ポンティ                                    |                |  |  |
| 滝浦 静雄 他  | みすず書房          |  |  |
| 植谷雄高作品集 第一集                                    | 河出書房新社         |  |  |
| 湯川秀樹自選集 全5巻                                    |                |  |  |
| 第1巻 学問と人生                                      |                |  |  |
| 第2巻 素粒子の謎                                      |                |  |  |
| 第3巻 現代人の知恵                                     |                |  |  |
| 第4巻 創造の世界                                      |                |  |  |
| 第5巻 遍歴   |                |  |  |
| 朝日新聞社 編  | 朝日新聞社          |  |  |
| パーロー物理化学 (上), (下)                              |                |  |  |
| G・Mパーロー  |                |  |  |
| 藤代 亮一  | 東京化学同人         |  |  |
| 物理数学の方法  |                |  |  |
| L・シュワルツ  |                |  |  |
| 吉田 耕作  | 岩波書店           |  |  |
| 現代数学の世界 1-6                                    |                |  |  |
| Scientific American ed.                        |                |  |  |
| 遠山 啓   | 講談社            |  |  |
| アシモフ選集 歴史編 11, 13                              |                |  |  |
| An Introduction to Statistical Thermodynamics, |                |  |  |
| Hill, T. L.                                    | Addison-Mes'ey |  |  |
| 上方はなし (上) 第1~26集                               |                |  |  |
| 五代目笑福亭松鶴                                       | 三一書房           |  |  |
| 解析学序説 上・下                                      |                |  |  |
| 一松 信   | 裳華房            |  |  |
| 現代の推理小説 全4巻                                    |                |  |  |
| 松本 清張 他編                                       | 立風書房           |  |  |
| ドストエフスキ全集 第17巻                                 |                |  |  |
| 一書簡集一 上, 中, 下                                  | 河出書房新社         |  |  |
| ポトマック  |                |  |  |
| ジャン・コクトオ                                       |                |  |  |
| 渋沢 竜彦  | ばら十字社          |  |  |
| ひとさらい  |                |  |  |
| ジュール・シュペルヴィル                                   |                |  |  |
| 渋沢 竜彦 訳  | ばら十字社          |  |  |
| 人類学的思考   |                |  |  |
| 山口 昌雄  | せりか書房          |  |  |
| 天才 (岩波新書 621)                                  |                |  |  |
| 宮城 音弥  | 岩波書店           |  |  |
| 線形計画法  |                |  |  |
| 千住 鎮雄  | 共立出版           |  |  |
| 最新化学語辞典  |                |  |  |
| 橋本 吉郎  | 三共出版           |  |  |
| 白痴 (上), (下) (ドストエフスキ全集 7, 8)                   | 河出書房新社         |  |  |
| 梶林鳥語   |                |  |  |
| 吉川幸次郎  | 岩波書店           |  |  |
| 法と社会 一新しい法学入門一 (中公新書)                          |                |  |  |
| 碧海 純一  | 中央公論社          |  |  |
| 美と芸術の理論  |                |  |  |
| 深田 康算  | 白鳳社            |  |  |

## 大化前代社会組織の研究

平野 邦雄 吉川弘文館  
大杉 栄 全集 全11巻 世界文庫  
税金の話 潮 出版  
青木 茂 徳間書店  
心 高田 好胤

## 結晶工学ハンドブック

結晶工学ハンドブック 共立出版  
編集委員会 編 刑法各論(上), (下) (現代法律学全集 27)  
大塚 仁 青林書院新社  
日本マルクス主義哲学史序説 未 来 社  
岩崎 允胤

## 教官著作寄贈図書

## 一本 館一

三井 利夫 (基工・教授)  
強磁電体 (新物理学進歩シリーズ 11) S.46 槇書店  
久貴 忠彦 (法・助教授)  
婚姻の届出  
一届出婚主義の現状と内縁問題一 S.46 有斐閣  
林 毅 (法・助教授)  
自然法論 (創文社歴史学叢書) S.46 創文社  
一理学部図書室一  
岸本卯一郎 (教・教授)  
向畑 恭男 (理・助教授)  
膜・イオン・インパルス 上・下巻 S.46 吉岡書店  
浜口 浩三 (理・教授)  
蛋白質の旋光性 (生物化学実験法シリーズ) S.46 東大出版会  
千原 秀昭 (理・教授)  
有機化学のための分子軌道法 S.46 東京化学同人

## 富沢 純一 (理・教授)

Advances in Biophysics Vol. 1 & 2  
1970/71. Univ of Tokyo Pr.

## 一中之島分館一

次田 皓 (医・教授)  
遺伝情報 II S.45 共立出版  
杉本 侃 (医・講師)  
図説 骨折の手術 A O法 S.45 医学書院  
猪木 令三 (歯・助教授)  
歯科薬理学 S.46 医歯薬出版  
中川 米造 (医・助教授)  
医学をみる眼 S.46 日本放送出版協会  
園田 孝夫 (医・教授)  
小泌尿器科学 改訂第5版 S.46 金原出版  
一吹田分館一  
小森 三郎 (工・教授)  
有機工業化学 S.46 朝倉書店  
加藤 健三 (工・教授)  
金属塑性加工学 S.46 丸 善

## 参考図書 一本館受入一

7月中受入済のもの  
The Europe Year Book 1971 Vol. 1  
Europa Publications Limited  
逐次刊行物所蔵目録  
日本科学技術情報センター  
神道大辞典 (平凡社版複製) 臨川書店  
国史大系書目解題 坂本太郎・黒板昌夫編 吉川弘文館  
国連世界人口年鑑 Vol. 20・21 原書房  
特殊法人総覧 昭45年版 行政管理庁編 大蔵省印刷局  
管理会計ハンドブック  
神戸大学会計学研究室編 中央経済社  
大学生の就職必携 法学書院  
防衛年鑑 1971 防衛年鑑刊行会  
高等函数表 第2版 林 桂一 岩波書店  
現代数学教育事典 遠山 啓等編 明治図書  
最新化学語辞典 橋本吉郎著 三共出版

気象用語辞典 松野満寿巳編 海文堂  
地学辞典 工藤暢須編 東京堂  
地学事典 地団研地学事典編集委員会編 平凡社  
星の事典 鈴木駿太郎著 恒星社厚生閣  
全天恒星図 広瀬秀雄 中野繁 誠文堂新光社  
原色日本鳥類図鑑 小林桂助著 保育社  
原色日本両生爬虫類図鑑  
中村健児・上野俊一共著 保育社  
原色日本海藻図鑑 瀬川宗吉著 保育社  
原色図鑑世界の貝 正・統 鹿間時夫等著 北隆館  
統原色日本魚類図鑑 蒲原稔治著 保育社  
全国試験研究機関名鑑 昭和46—47年版  
ラティス  
浮世絵事典 1—3 吉田咲二著 画文堂  
生きている世界の故事名文句 自由国民社  
西和辞典 高橋正武編 白水社

## フランスの図書館

町井 照子

私は昨年11月から今年の4月終わりまで1970年度フランス政府給費留学生として6か月間、パリにある国立高等図書館学校(Ecole nationale supérieure des bibliothèques)で彼地の図書館学校教育を受ける機会を得ましたので、フランスの図書館事情について簡単に紹介させていただきます。

日本のように戦後、特にここ10年程の間に急激に発展した図書館と違って、フランスの図書館は過去の歴史的な基盤の上に築かれたものであります。図書館建築の古さから、また開架式の図書館(最近建築された所を除いては大学図書館も例外ではない)が多くあって、日本の戦前の図書館と変わらないとする見方があります。確かにパリにあるほとんどの図書館は設備が古く、また限られたスペースしかないため、資料の配架方法については問題があると思います。しかし共通して徹底されていたことは、図書館に所蔵されている一切の資料は、利用者がいつでも利用できる体制に整理されなければならないという図書館理念が実際に生きていたことです。(日本の図書館では未だ書架分類だけを行なっている所が多い)つまりあらゆる分野における Bibliographies や件名目録が整備されていて、それらを手掛りに自分の欲する資料を探し出せるようになっていきます。特に人文・社会科学分野の参考資料が多く発行されている点に特徴があると思います。レファレンサーになるための訓練は、質問された事項の主題を如何に適確につかんで資料を探し出すかに重点が置かれています。学校の講義でも学生に一貫して資料の分析→総合の概念を叩き込んでいたことは、記憶に新しいところです。また養成期間中に一つの主題に関して情報源を収集させその解題をやらせたり、幾つかの論文の抄録を実際に作らせます。日本の図書館の中で一番遅れている参考業務は、まず参考資料の不備・不足に大きな原因があると思います。また、日本の自然科学分野の図書では、最近でこそ世界的規模を持つ二次資料や索引類・辞書などが整備されてきつつあり、最近の資料の総合受入部数ではヨーロッパ諸国を凌いでいると思いますが、レファレンサーの養成についてはまだまだ不徹底で、実務に就いてから個々に暗中模索して業務を遂行している場合が非常に多いのではないかと思います。次に最近特に重要性を帯びて来た学会の Proceedings や Symposium の目録が別に取り出されて、大学図書館や Centre National de la Recherche Scientifique の図書館などに備え付けられていることです。総合目録はまだ作られていないようですが、日本でも必備のものと考えます。

それから図書館相互協力についてですが、すべての図書館(ドキュメンテーションセンターを含む)は文部省の図書館局の管轄にあり、ある程度まで利用体制が整っています。図書館局の指令によって、1952年1月からパリにある中央サービス機関(Service central)では外国書の受入カードの送付を受け、相互協力を推進させています。現在510機関の図書館が加盟し、必要に応じて分野別の総合目録が作られているようです。

最後に、マルセイユ大学の Luminy (地名) の図書館では目録業務が機械化され、1969年1月から実験が行なわれ、現在実施段階に入っています。私自身パリから700km離れたこの地に出かけ見学させて貰いましたが、電子計算機は図書館になく、大学の電子計算機センターに依頼してやっているとのことでした。伝統を誇るフランスの図書館も大きな転換期に来ているのだと思います。

(まちい てるこ：薬学部分館)





ことであるが、参考業務の充実、系統的な参考図書の整備、文献資料の共同利用、および分担収集の推進、分館等の改廃統合による組織の整備と施設計画の推進、図書維持費の増額、図書館業務の省力化の推進等が挙げられる。

(二)大学図書館専門職員長期研修は7月19日～8月14日まで、大学図書館職員講習会は10月に東北、東京、近畿または東海地区で、ドキュメンテーション講習会は、東京、近畿地区で、近世史料取扱者講習会は、6月に山口市、10月に東京でそれぞれ開催する。

### 研究集会

関(阪大)、遠藤(横国大)、山中(香川大)各館長が座長となり、「新しい大学図書館像」特別委員会の今村(北大)委員長から経過報告が述べられたあとに、研究報告が行なわれた。

#### ①相互協力の問題としての「総合的収書計画」(報告者：小泉一橋大館長)

相互協力による総合的収書計画の必要性、対象となる資料、その方式、諸外国の例、わが国におけるこれらの計画を実施する際の問題点としてナショナルプランの必要性、共同利用施設の設置、既存資料の調査、総合目録の整備等が報告された。

#### ②保存図書館について(報告者：保田名大館長)

諸外国における保存・保管図書館の沿革と現状、わが国における保存図書館の考察として、人文・社会科学系の図書館では、一大学の問題として Storage Library、自然科学系図書館では、数大学共同利用の Deposit Library の性格をもつが、いずれの場合も分担収書計画の具体化と密接な関連があると報告された。

#### ③大学図書館予算のあり方について(報告者：高木九大館長)

予算問題は緊急性と切迫性をもつので、現時点での図書館固有の図書購入費と運営費の増額という現実性のある問題に限定し、大学改革とも関連があるが、文部省とともに、図書館予算制度改革のために、自主財源確保の予算基準の設定が必要であり、その方途として、大学図書館実態調査から最低の図書館資料費と図書館運営費を算出し、これらの最高平均額(Aクラスの大学)との間を学部数、学科数、講座数、学生数、年間受入冊数等の係数で、現実の水準を決定することが報告された。

### 分科会協議

第1(予算)、第2(人事)、第3(奉仕)の3分科会にわかれ各地区提出の協議題を協議した。第3日(6月4日)

### 全体会議

(1)各分科会主査から協議事項が報告された。

#### ①第1分科会報告(主査：小泉一橋大館長)

図書館維持費の抜本的増額と格差是正、図書購入費、とくに学生用図書、基本参考図書の購入費の増額と配付、マイクロファイブリーダープリンターの全大学設置、職員研修旅費の計上、夜間開館手当の増額等が協議され、いずれも文部省に要望することになった。

#### ②第2分科会報告(主査：渡辺新潟大館長)

図書館職員を第2次定員削減(3カ年で約9%)から除外、定員増、とくに夜間学部を有する大学についての格段の配慮、部課制以外の大学図書館に事務長補佐の設置等が協議され、いずれも文部省に要望することになった。

#### ③第3分科会報告(主査：羽白広大館長)

保存図書館設置の可能性およびその問題点、LCカードの導入について、有償であり、迅速性を要するが、現在の蓄積館である京大では、そのサービスには人手を要し、限界があるので、近き将来MARC IIテープの導入が望ましいという意見があった。また、貴重文献目録

の刊行に要する経費の計上を文部省に要望することになった。

- (2)「新しい大学図書館像」特別委員会については継続を決定し、報告された3事項につき作業グループを設けさらに検討することになった。
- (3)要望書については、各分科会主査がとりまとめ、会長館、副会長館で調整し、文部省に提出することになった。
- (4)次期総会は九州地区で、九大が会場館となって開催することになった。

今回の総会は、協議題、各報告等の資料が当日に配布されたため、出席者が完全に理解して討議するに至らず残念であった。

### ——近畿地区国公立大学図書館協議会企画委員会——

46.6.22(火) 於 京大図書館, 出席者 整理課長

1. 46年度の研究集会について
  - (1) 参考図書に関する研究集会……日時等未定, 参考図書に関する委員会で検討
  - (2) 図書館業務の省力化に関する研究集会……受入関係業務を主な題目として, 京大, 阪大, 大市大が協力し, 11月中旬に開催予定
  - (3) 図書館施設に関する研究集会……阪大吹田分館で, 8月下旬に開催予定
2. 委員会活動について
  - (1) 本年度第2回の企画委員会は9月10日に阪大中之島分館で開催予定
  - (2) 図書館業務機械化委員会は, 阪大図における電算機導入に関して秋季に阪大図で開催予定

### ——分館長会議——

46.6.23(水) 14.00~17.00 於 館長室

①図書館委員会に提案する46年度附属図書館予算配分案について, 検討協議し, 原案どおり了承を得た。②薬学部の吹田地区移転に伴う図書館施設のあり方に関し, 協議され, 終局的には吹田地区に設置されるであろう生物科学系分館(中之島分館の移転)に統合することに大略了解点に達した。

### ——図書館委員会——

46.6.29(火) 13.30~16.00 於 中之島分館会議室

①昭和45年度決算書および昭和46年度図書館運営費配分(案) 審議承認 ②電算機(FACOM230-15)の導入 昭和46年度から本館に導入されることになった。1月末に据付けを終わり試験期間を経て, 昭和47年度から本格的に移動する。③研究者閲覧スペースの利用 本館の増築に伴い, 書庫内に研究者閲覧スペースを設けるが, 研究用図書収蔵のための書庫利用については, 豊中地区運営委員会の中にこれに関する小委員会を設置する。④館長の海外出張の期間(46.7.9~26)中の館長事務代理は, 坂本分館長に決定した。

報告事項: ①附属図書館本館増築の起工式について報告 ②分館長会議報告 ③図書館事務組織について報告 ④フランス政府からの図書寄贈受入れ感謝の会が5月25日に行なわれた。⑤第18回国立大学図書館協議会総会報告 ⑥大阪大学学雑誌目録和文編(1971)の刊行 ⑦教養図書選択委員会経過報告 ⑧新生生に対するオリエンテーション実施 ⑨コンピューター利用技術研修実施。

## ——豊中地区運営委員会——

46.7.6(火) 14.00~16.00 於 本館会議室

①昭和45年度決算書および昭和46年度運営費予算(案)承認 ②開架図書選択委員 現在までの経過報告ののち、昭和46年度の選択委員会のメンバーを次のとおり決定した。委員長 滝浦(栞)、森(文)、山口(法)、大野(経)、浜口(理)、大塚(基工)、高瀬(教)、中野、藤井、田保橋(図) ③研究者閲覧スペースの利用に関する小委員会(仮称)の設置 委員会を設置して、頻繁に会合を開き、各部局の意見を反映したいということで話し合いが行なわれ、9月より12月までの間に10回以上委員会を開くこととし、次のとおり小委員会のメンバーを決定した。  
委員：梅溪(文)、矢崎(法)、福場(経)、千原(理)、今市(基工)、今川(教)、社研(未定)。

## ——新聞・雑誌の分担保存打合せ会——

協定館：関大、府大、市大、大外大、大経大、阪大  
46.6.16(水) 14.00~17.00 於 関西大学

①分担保存対象の雑誌検討 協定館6館の所蔵雑誌リストにより参加者8名で順次検討を加え、分担保存対象となりうるもの計39点が決った。②参加各員は自館の分について持ち帰り意見を徴して、次回に再調整を行なうこととなった。(阪大：芸術新潮、美術手帖の2点と2次対象の文学界他3点)

## ——中之島分館運営委員会(第38回)——

46.7.12(月) 14.10~15.10 於 中之島分館

①45年度中之島分館維持費決算報告及び46年度維持費予算案を審議、承認。②テレックスの利用状況について説明。③指定図書費の運用について、中央より指定図書費の配当を受けたので指定図書の選択、運用については、関係部局の運営委員において検討する。④教室校費購入雑誌の扱いについて、教室の校費で購入する雑誌が最近増加し、今後も増える傾向があるので、管理および製本の問題を含めて更に検討することになった。

## ——基礎工学部図書委員会(第18回)——

46.5.27(木) 15.00~16.00 於 中会議室

①決算報告：継続図書費は概算で計算しているが、出版事情により狂いが生じた。運営費は図書室改装に伴い例年より額が大きかった。②46年度予算について：45年度図書館基本参考図書費でJIS全収版を購入した。本年より継続図書費でJIS追録分を負担する。概算80,000円。③学生参考図書費・指定図書費の配分：学生参考図書費は学生数に比例して配分、指定図書は受講者数の比率で配分する。④委員長交代：難波委員長が外国出張のため、次回委員会に持越す。

## ——開架図書選択委員会—第1回(昭和46年度)——

46.7.22(木) 10.00~12.00 於 本館会議室

①選択対象は原則として「教養図書的」なものにする。②学生希望図書は、高度に専門的なもの、およびあまりにも特殊なもの、金額の高いものを除き、普遍的・概論的なものに限る。同一学生の希望に集中しないよう同一年度内に3点以内とする。また1冊2,000円以下のものは上記基準に合うものであればただちに購入できる。③緊急を要するものは、委員長が関連分野

教官の意見を参考にして決定する。④選択のためのソースは、教官推せん図書、学生希望図書および図書館職員推せん図書とする。⑤今後の予定は、本年10月および来年2月。⑥第1回選択図書は、Que sais-je, Everyman's Libraries の第2期分 232千円、教官推せん12千円、学生希望241千円、図書館職員推せん710千円、見計らい2千円、合計1,197千円。なお、これでクセジユ文庫とエブリマンズ・ライブラリー（原書）は全部揃うことになった。



## マイク

### ロッカーについて（本館開架室）

学生の物入れ（運動着等）のためにロッカーを置いているのではない。カバン類は開架図書室へ入るときは持ち込んではならない。そのためにロッカーを用意しているが このロッカーの管理という仕事が難物中の難物で、年中利用者と管理する側とのイタチごっこの連続で全くお手上げの状態である。かといって放置しておくと思えるロッカーが日に日に減り何のためのロッカーかわからない。たびたび整理して注意をうながし少し成績がよくなったと思うと多くの新入生を迎え、また改めて同じことの連続である。何か決定的な解決策はないものか考えてはみてもこれといった案がない。コインロッカーを置くことはとても出来ないことで、落ちつくところは根気よく整理して学生の良識に訴える以外に方法がない。これも当阪大だけに限らず他の大学図書館共通の悩みらしい。毎日毎日苦々しい思いでロッカーをにらみついている。現在の数だけでは不足なので、来春の増築完成時には3倍強増設する予定でいるが、同時にその割合で、個人専用ロッカー？が増えると思うと全く気が重い。なんとか正しくロッカーを使ってもらいたいものだ。いい知恵をお持ちの方があれば教えていただきたいと思っている。

## 日 程

- 6月16日（水）新聞雑誌の分担保存打合せ会（関西大学）
- 6月22日（火）近畿地区国公立大学図書館協議会 企画委員会（京都大学楽友会館）
- 6月25日（金）大学図書館国際連絡委員会一第6回、および第3回総務委員会（東京大学）
- 7月5日（月）国立大学図書館協議会 常務理事会（京都大学）

## 人 事

### 職員の異動

- 採用（6月1日付 森沢佐知子 閲覧課 運用第一掛 理図書室）
- 配置換（8月1日付 藤田 明功 産業科学研究所用度掛へ）（中之島分館受入掛から）
- （ 〃 森本 泰弘 中之島分館受入掛へ）（施設部企画課総務掛から）

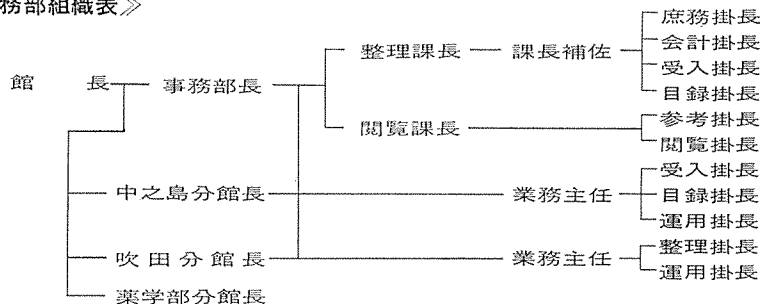
## 附属図書館事務部組織変更

7月27日付けで分館における事務管理体制を明確にするため、次のように事務部の組織を改め、事務部事務分掌規程の改正および関連の人事異動を行なった。

これにより、中之島分館事務室、吹田分館事務室がおかれ、課から独立し、直接、事務部長

の命をうけて、分館事務を分掌することとなった。

《事務部組織表》



訂正 前号6ページ「図書館の概況」に誤りがありましたのでお詫びして訂正いたします。

図書館の概況(昭和45年度)

(46.4.1 現在)

区 分	本 館	理 学 部 室 国 書 室	基 礎 工 学 部 室 国 書 室	中之島分館	吹田分館	産研図書室	薬学部 分 館	計
蔵 書 数	483,600	67,068	36,423	154,463	163,898	24,272	14,870	944,594
45年度受入冊数								
1) 図 書 冊 数	30,574	2,832	5,078	6,176	8,127	1,249	966	55,002
2) 雑 誌 種 類 数	3,354	729	810	2,226	2,334	360	182	9,995
図書費支出額(千円)	110,530	18,639	18,072	32,986	42,310	8,350	5,535	236,422
施 設								
1) 建物面積 (㎡)	3,094	509	403	2,766	2,957	292	349	10,370
2) 座 席 数	500	49	128	182	200	24	67	1,156
館 員 数	48	6	4	23	11	3	3	98
利 用								
1) 貸 出 冊 数	73,491	15,411	17,484	41,556	5,380	1,695	5,355	160,372
2) 貸 出 人 数	53,548	12,023	15,333	28,595	4,225	1,525	4,443	119,692
相 互 利 用								
1) 依頼件数(学内)	56	307	92	1,237	178	21	589	2,480
(学外)	236	—	—	1,544	67	—	170	2,017
2) 受付件数(学内)	384	703	91	1,448	230	129	67	3,052
(学外)	697	—	—	3,398	—	—	—	4,096
参 考 調 査								
1) 即 時 調 査	247	—	—	4,764	—	—	—	5,011
2) 主 題 書 誌 作 成	—	—	—	15	—	—	—	15

註：①吹田分館の利用欄は昭和45年10月開館以降の数字である。②中之島分館欄の数字は、微研図書室を含んだ数字である。

編集スタッフ 編集兼発行人 中野六郎 委員 田保橋 彬(長) 岩井 勇 松浦 正

榎田順治 津田恭司 山下 進 泉 文雄

レポーター 徳村泰弘 田中久文 町井照子 近藤敬子 篠田恭子 河崎戎三